

# 第3学年 国語科学習指導案

日時 平成22年6月29日(木) 5校時  
児童 男子17名 女子9名 計26名  
指導者 藤澤 美紀子

- 1 単元名 まとまりに気をつけて読もう
- 2 教材名 「ありの行列」(光村図書3年上)  
資料名 「とんぼのひみつ」(教育出版3年上)  
「ありとしてむし」小林清之介著を参考にしながら自作教材

読む目的：◎説明文の組み立てに気をつけながら読もう

主たる言語活動： 観察・実験をした記録文を段落構成に気をつけながら読み、自分なりにまとめること。【活用1】

活用に結びつく基礎・基本

- ・「問いの文」と「答えの文」を文章の中から読み取る力
- ・大きなまとまりを意識して読み取る力
- ・読み取った文章を短く要約する力

## 3 研究主題にせまるための授業改善に関わる提案

### (1) 視点1に関わって

導入で段落構成をつかませるために、段落構成の分かりやすい文を提示する。

「段落」「問いの文」「答えの文」に着目しながら読むスキルを高めるために、導入で教育出版社の「とんぼのひみつ」を扱う。

活用場面で、段落構成をつかみながら、自力で作品を読ませる。

短い作品で、文章構成が「ありの行列」と似ている作品を提示し、自力で「段落」「問いの文」「答えの文」に着目し、何が書いてある説明文なのか自分でまとめる力をつける。

「ありの行列」の文章の組み立てと似ているところに着目しながら読み、文章構成をとらえることができる。

## 4 単元の目標

### (1) 単元の目標

- ◎ ありの生態に興味をもって読むとともに、「段落」について知り、まとまりに注意しながら読む読み方を知る。

### (2) 単元の評価規準

評価の観点	評価規準
関心・意欲・態度	書かれている事項に興味・関心をもち、また「段落」「接続語」「文末」などに着目して文章を分析的に読むことを楽しんでいる。
読むこと	「問い」と「答え」、段落ごとに要点を正しくつかみ、叙述に即してありの行列ができるわけを理解している。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	指示語・接続語や文末表現に注意して読み、段落の役割を理解している。
改善の視点 1	「段落」「問いの文」「答えの文」に着目しながら文章を読み取ることができる。
振り返り	○「問いの文」「答えの文」に着目しながら読めたか。 ○文章の組み立てを考えながら読むことができたか。

## 5 指導と評価の計画(指導時数9時間)

段階	時間	おもな学習活動	教師の工夫
一次	2 習得	1 全文を読み、学習の目的をつかむ。 (1)「とんぼのひみつ」を読み、段落や文章構成について知る。  (2)ありの行列の全文を読み、学習のめあてをもつ。  (3)新出漢字や語句の確認をする。	1(1) 「段落」「問いの文」「答えの文」に着目しながら読むスキルを身につけさせる。
二次	6 習得	2 まとまりに気をつけて読む。  (1)第1段落の問いの文をリライトする。  (2)第2・3段落からウィルソンがどのような方法で調べ、何が分かったのか読み取る。  (3)第4・5段落から、第二の実験・観察結果を読み取る。  (4)第6・7・8段落から研究の成果を読み取る。  (5)第9・10段落からありの行列ができるわけを読み取る。  (6)文末表現の違いに気付き、文章の構成を把握する。	2(1)～(5) それぞれの段落を短く文でまとめることで、(6)の文章構成をとらえる学習につなげていく。  (視点1)
三次	1 活用   本時	3 一次や二次で学んだことをもとに、ファーブルがおりについて書いた観察文を読み取る。  (1)「ファーブル昆虫記 あり」を、どんなことが書かれてあるのかに気をつけながら音読する。(課外)  (2)「問いの文」「答えの文」に気をつけながらファーブルがどのようなことを観察したのかについてまとめる。	3(2) ・「問いの文」「答えの文」に着目しながら自力で読ませる。 ・どのような言葉に着目しながら読んだのか確認する。 ・「ありの行列」と「ファーブル昆虫記」の説明文を比べて、文章の組み立てで気づいたことを発表させる。

(1) 本時の目標

【読むこと】「ファーブル昆虫記 あり」について「問いの文」「答えの文」に着目しながら読むことができる。

(2) 展開

段階	学習内容とおもな活動	・教師の支援 評 視点に関わる工夫 評価
つ か む 5分	1 前時までの学習を想起する。 2 本時の学習課題を確認する。 ファーブル作の「ありとしてむし」を文章の組み立てに気をつけながら読み取ろう。	・どのようなことに気をつけて説明文を読めば良いのか確認する。
た し か め る 25分	3 本時の学習の進め方を確認する。 (1) 全文を音読する。 (2) どの段落に「問いの文」があるのか確かめ、まとめさせる。 (3) ファーブルがどんな観察をしたのか、短くまとめる。 (4) どの段落に「答えの段落」があるのか確かめ、まとめさせる。	3(1)～(4) ・ファーブルはどのような観察をしたのかについて簡単にまとめさせる。 ・ファーブルはどのような観察をしたのかについて簡単にまとめさせる。(視点2) 評 〈おおむね満足できる状況B〉 文末表現や、指示語に気をつけながら「問いの文」や「答えの文」の段落を見つけることができる。 ○Cの子への支援 「ありの行列」で学んだことを振り返らせながら、同じような文体に着目させる。
ま と め る 15分	4 ウィルソンとファーブルが観察した「ありの行列」を読み比べて、気づいたことを発表しあう。 (1) 文章の組み立てで気付いたことを発表させる。 (2) ウィルソンとファーブルが観察した内容や、結果の違いについて気付いたことを発表しあう。	・これまで学習した3つの説明文のまとめシートを見ながら、説明文の組み立てで気付いたことを発表しあう。 ・ウィルソンは、ありは「におい」をたよりにして行列を作っていると主張し、ファーブルは「目」で確認しながら行列を作っているという主張の違いをとらえることができた子には発表させ、内容の違いに気付かせる。

フアーブル作の「ありとしでむし」を文章の組み立てに気をつけながら読み取ろう。

### ありとしでむし

問いの文

さむらいありは、なぜ、自分のすにかえて来られるのでしょうか。

フアーブルの観察

はじめに、さむらいありが通ったところをほうきではいて、土をずつとむこうにやった。

何匹かはちやんとほうきではいたところをつつきって歩いた。

次に、新聞紙を道に広げてみた。あっちへうろうろ、こっちへうろうろしていたが、ちやんと自分の巣に帰った。

土をけずったり、水をながしたりしてぎさんのにおいを消してもちやんと帰った。

答えの文 まとめ

このように、においも道を知る手がかりになるが、目でも見たり、ひげてきわってみたりしながら巣に帰るのでありの行列ができる。

### ありの行列

問いの文

ありはものがよく見えないのに、なぜありの行列ができるのでしょうか。

ウイルソンの観察と結果

**はじめに**、ありの巣から少しはなれたところに、一つまみのさとうを置いた。はじめのありが通った道すじなら、外れていなかった。

**次に**、道すじに大きな石をおいて手でさえぎってみた。ちりぢりになったが、だんだんありの行列ができていった。おしりからとくべつなえきを出すことも分かった。

答えの文 まとめ

**このまじり**、においをたどって、えさの所へ行ったり、巣に帰ったりするのでありの行列ができる。